Photographic Society of
Zone System

ゾーンシステム研究会会報　Web 公開版
発行日：2017.8
発行者：中島秀雄
事務局：畑　文夫
編集部：荒井　崇

NO.63

CONTENTS

- スポッテングレクチャー
- Zone System 冬季撮影会
- インフォメーション

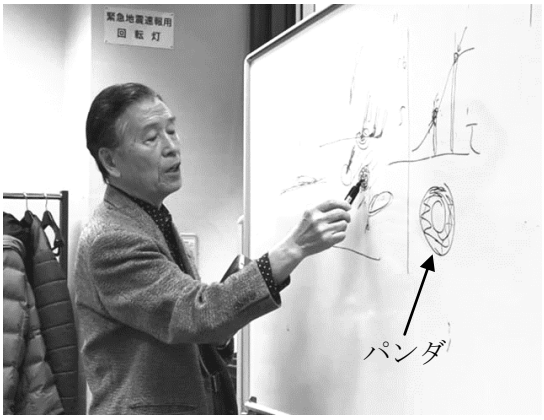
スポッテングレクチャー

鈴木武志会員によるレクチャー(2017年1月例会開催)

鈴木武志

(1)スポッテングを考える

お馴染みのスポッテングではありますが、これを言葉で説明すると次のようになるかと思います。先ず用意する道具は筆と水と色皿と色材それにルーペ。ここでは多分皆さんこのような道具は既にお持ちのはずですので、次に作業の実際ですが、筆に水を含ませ色皿から色を取って写真に色を着ける。これだけです。スポッテングの説明は以上で終わりとなります。しかし、写真大学でさえ勉強で受けるスポッテングの実習という時間では終わった人から帰っていいよ、といった扱いのようです。スポッテングという作業の扱われ方はその程度です。その程度しか扱われないスポッテングなのに、それなのに写真展の出品の時期や特に作品作りの大切な時になると必ずというぐらいパンダの目玉に苛められ作品の完成に時間的ブレーキがかかり、たかがスポッテングと思えば思うほど恨みの募る作業です。それでもなんとか完成した作品を提出するも、ここで中島代表の作品作りに対する厳しい目に触れ、「黒が少し目につくので、抑えたほうがいいだろうから、ちょっと洗ったら落ちないか。」と注意を受けたり「まだ白いところがあって目立つからやり直すように。」とか、アドバイスを頂くことがあります。自分流に技術を身につけた人でも毎日スポッテングをやって慣れているわけではないし、めんどうくささが先立ち能率の悪いことに恨めしく思いながらも何とか取り組まざるを得ない現実もあるわけです。



(2)三種類のパンダを退治するには

まず色皿作りの準備。筆の先に薄い色を作るための色皿を仕立ててみよう。色皿と容器入り色インクを用意、スポイトで色インクを吸引し皿を水平に保ちながらインクを 1～2 滴落とし色インクの水分が飛んで乾燥するまで暫くそのまま放置する。この様にして液状のインクが色皿の上に乾いて定着した状態のものを作り置きします。スポッテング作業をするときは、これを逆に水で湿らせた筆で今度は少しずつ色を溶き、少量で薄いスポット液を筆先につくる。手順としてこれがお薦めですので、これを作ってみましょう。

次にパンダを無くすにはまず筆の状態作りから始めます。尚、筆の毛は本来動物の天然毛なので体液として多くの油性分に被われています。そのままでは水を弾いて筆にはなりません。ここが製作に最も技術を要する過程です。そのため使用後は良く洗って、先を整え自然乾燥させて下さい。使用時には筆を水綿にたっぷり漬け、筆の根元まで充分にウオーミングアップさせること、毛が全体しなやかになり、毛と水の関係がツルツルになって筆からの水落が良くなり使いやすくなります。水を含んだこの筆で色皿の白く空いている部分をサート滑らせ、湿らせておきます。それから用意したティッシュを使って筆の水分を取り、毛が湿っている程度にしたら先ほど皿の上に塗った少量の水に筆先を近づけて、吸いついてくるく

らいの水分で色をつけ、その濃度具合を調整しながらスポッテングに取り掛かることにします。では実際にやってみましょう。水分は少なく、そして色は薄いところからです。これでパンダは退治できるはずです。

今までパンダに悩まされていた方は、たぶん筆と色とを手にすればあとは水を付けて紙に塗る、といった学校での美術の影響が大きいと思われます、それはあってもいいですし流れはなるほど似ていますが、スポッテングの作業は似て非なるものと言えると思います。

こんなことはありませんか。

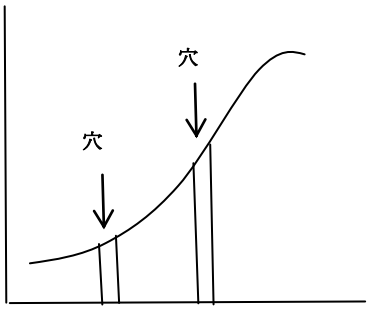
●水入れの水に筆を入れて洗い、多めの水は入れ物の淵に筆をこすって具合を見てから色を付けて印画紙に色を着ける。**(パンダつくりの例－①)**

●筆にウオーミングアップの手順を経ることなしに、筆先にチョッとだけ水を付けて、このくらいかと思える色合いをつくってスポッテング。**(パンダつくりの例－②)**

●筆に含んだ水の量も、湿り具合もよく色もスポットぬけした周りの色合いとバッチシの色を作れたとして、これで染めれば上手くいくはずですが、さて。**(パンダつくり例－③)**

スポッテングをこんな角度から見たらどうなるでしょう。特性曲線をイメージしてください。これに色ぬけの部分を書き入れてみると図の様になると思ってください。図の穴の部分に筆で色を入れるとします、ジョウゴはありません。これに、上のパンダ造りの例－①　②　③　を重ねてみてください。とてもうまく色液が入るとは思えません。それに印画紙の表面には時事刻々湿度にまで大きく依存性の高いゼラチン層で穴の上を蓋しているのです。余分の色液が穴の淵についてしまいます。これがパンダになってしまう現況です。

以上の事柄を理解いただければ有難いと思います。



特性曲線

(3)その他レクチャーにおける特筆事項 (記録：荒井)

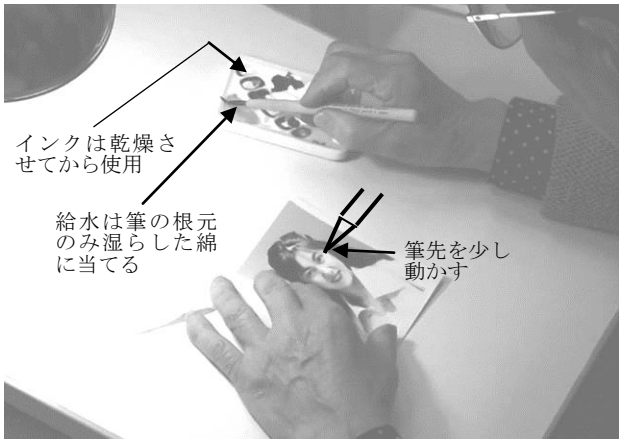
●塗るという感覚は捨て、紙に吸い取らせる感覚。

●水は精製水を使用すること。

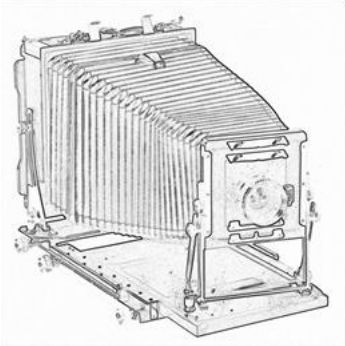
●筆を穴に当てて染みこむのを待つ。ただし当てっぱなしではなく、少し筆先を動かす。
（そうしないと中心のみ濃くなってしまう。）

●インクと水は少なめの適量が肝心。理想はスポットに筆を当てた後、筆からインクが無くなっている量。

●インクの濃さは基本薄め。濃くしたい場合は数回重ねてスポットする。



●インクは染料の物を使うこと。
（染料はゼラチン層に染みこむため）
（現在マーシャル社のスポッティング用インクが銀一にて入手可能）
●筆の給水は、まずティッシュで先端のインクを拭き取り、湿らせた綿に筆の根元のみ当てて水を吸い上げ、再度ティッシュに当ててインクと余分な水分を取る。
（インクの付いてない筆の根元のみ湿らせた綿に当てるので、綿は汚れない。）
●筆は、使用後先端の曲りが戻るものが良い。
戻りが悪い筆は、製作時、毛の油分の調整失敗で筆作りの技術不足、他育ちの悪い動物の見極め違い等もあり、筆は良い品を選ぶこと。



Zone System 冬季撮影会

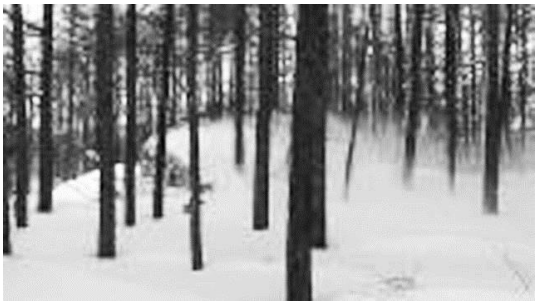
福島県裏磐梯高原　秋元湖および曽原湖周辺

大野雅弘

・**日時：**2017 年 2 月 11 日（土）～12 日（日）
・**参加者：**中島代表　北野　長谷川　川北（幹事）臼井　大野

11 日の朝 9 時に猪苗代湖に集合ということで電車組の私は郡山から磐梯西線で集合場所へ向かいました。偶然車両でお会いした長谷川さんといろいろ銀塩写真に関わるお話をしながら列車にゆられ 30 分。鉄道の音が曇ったことに気づき、ふと外を見るとそこはもう一面の銀世界の中でした。猪苗代駅に着いたときにはちょっとした吹雪になっていて、実はそれは今年一番大雪が降った週末だったのです。違う車両に乗っていた北野さんとも合流し、駅の横にあるレンタカー屋さんで待ち合わせていた川北さんと臼井さんとも合流し雪の中を前日から入られている中島代表が待つ裏磐梯を目指しました。

ペンションに到着して早速、中島代表のおすすめの撮影スポットへ移動することになりました。実は、かなり降雪があり当日の撮影は難しいかと車中でみなさんと話をしていたのですが、そんなことはお構いなしで、「はい行きますよ」となりました。

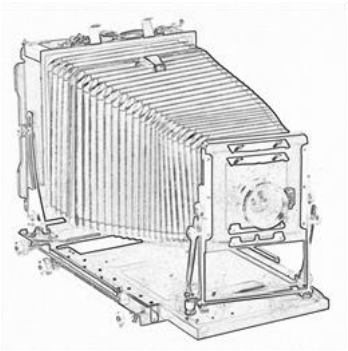


最初のスポットである秋元湖の周辺に到着。フレーミングを探しているとどんどこまた雪が降ってきたので、一旦撤収してまずは昼食を取りにいくことに。そして今度は裏磐梯高原ホテルでコーヒーを飲みに。暖炉を囲みながらガラス越しの絶景はとても美しかったです。そのあと、駐車場で撮影スポットを見つけたのですがどうもそこが除雪車の雪捨て場だったらしく撮影は断念せざるを得ず、今度は第二の撮影スポットである曽原湖へ移動することになりました。湖畔のあたりはとても美しいブナ林（おそらく）がひろがり。湖面は凍って白く雪をかぶっていて幻想的な雰囲気があるところでした。中島代表に撮影ポイントを教えていただき、黒い水面を Zone 2 で撮影しました。

各自それぞれポイントを見つけて撮影を行ったあと、宿に戻りました。今となれば、笑い話ですがとにかく降雪はすごかったです。夕食のあと、中島代表のスライドショーがありアメリカでのワークショップでのお話を混ぜながら素敵な写真を見せていただきました。

翌朝も大雪警報の中の撮影となりました。朝食後、まずは全員で車周辺の雪かきで汗をかきました。除雪が終わるまでペンション内での撮影会となり、部屋から外の風景の撮影やペンション内の撮影を行いました。

ようやく、車を動かせるだけの除雪ができたところで出発となり、昨日断念した秋元湖湖畔の撮影地へ向かいました。湖畔の別荘の建物やガードレール周囲の雪をかき分けて湖面の撮影をおこない、昼食後再び曽原湖へ戻り午後 3 時ごろまで各自撮影を行いました。最後まで日が照ることはなかったのですが、きっとそれはそれなりに幻想的な写真になると思います。（筆者はまだ 1 本目のネガと格闘中）



コーヒーショップで暖をとり、もう一泊滞在される中島代表と別れて帰途へ。余談ですが、このあと猪苗代湖駅についた時にはものすごい地吹雪になり、自然の恐ろしさ体験しました。なんとか皆さん無事に帰着できてよかったです。中島代表指導の下、素晴らしい自然の風景を撮影することができたのは大変貴重な経験になったと思います。ぜひ、またこのような撮影会があれば参加したいと思いました。研究会の方々ともいろいろなお話ができたのも大きな収穫となりました。

Information

【トピックス 】

[残雪撮影会]

・**日時：**2017 年 4 月 1 日（土）（日帰り）

・**参加者：**中島代表　臼井　中澤　倉又　鈴木（知）　金子（幹事）

・**撮影地：**檜枝岐村

金子さんの案内により、残雪撮影会が行われました。除雪された雪が道路脇には 2mを超え、林や河原にはまだ多くの雪が残っており、橋の上や河原の斜面などで撮影。大変有意義な撮影会となりました。

[ゾーンシステムワークショップ]

アトリエシャテーニュ（旧ヒットオン）にて、ゾーンシステムワークショップが行われました。（戸部記念財団主催）

4 月 15 日（土）～5 月 21 日（日）、計 7 回のカリキュラムで開催。

Information

［表紙の作品］

・作者：皆川 賢
・タイトル：冬の森
・フィルム：KODAK TMY(T-MAX400)
・フォーマット：4x5
・レンズ：90mm
・絞り：f45
・シャッター：1/60 秒
・キーゾーン：雪（Ⅶ～Ⅷ）
・ハイライト：雪（Ⅷ）
・シャドー：幹（Ⅲ）
・印画紙：ORIENTAL イーグル VCFB